Japanese Literature — 29

石川達三集

〈監修委員〉
伊藤　整
井上　靖
川端康成
三島由紀夫

〈編集委員〉
足立巻一
奥野健男
尾崎秀樹
北杜夫
（五十音順）

学習研究社

現代日本の文学

29

全50巻
分割払価格　39,000円
現 金 価 格　35,500円

石川達三集

昭和45年4月1日　初版発行
昭和48年2月1日　九版発行

著 者　石川達三

発行者　古岡秀人

発行所　株式会社学習研究社

東京都大田区上池台4－40－5
郵便番号 145　振替東京142930
電話　東京(720)1111（大代表

印刷　大日本印刷株式会社
中央精版印刷株式会社
製本　中央精版印刷株式会社
本文用紙　三菱製紙株式会社
表紙クロス　東洋クロス株式会社
製函　日本紙パルプ商事株式会社

＊この本に関するお問合せやミスなどがありましたら
文書は東京都大田区上池台4丁目40番5号(〒145) 学研
「ユーザー・サービス本部事務局」現代日本の文学係へ
電話は，東京(03) 720－1111 内線352,353か，東京(03)
727－1600へお願いします。

© 1970 Printed in Japan　0395－164 629－1002

石川達三文学紀行

東京都奥多摩鳩ノ巣の部落

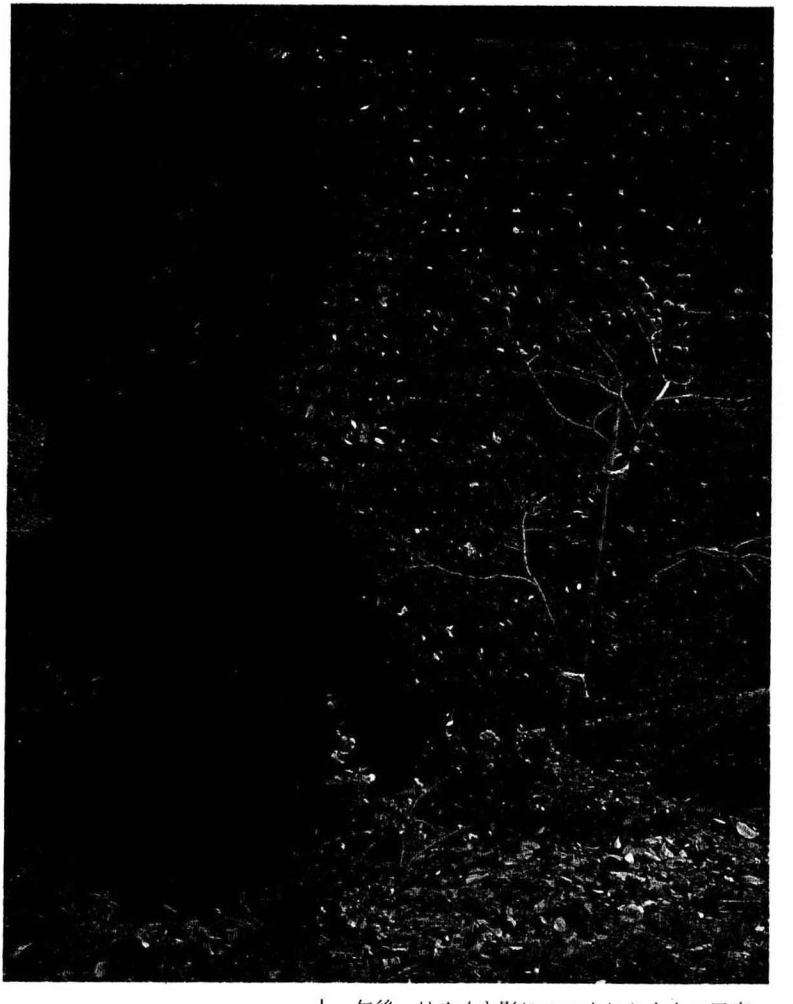
「御覧なさい、下の方はもう日がかげって来た。朝は十時にならなくては日が当らないし、午後は三時になるともう山の向うに日が落ちてしまう。一日にたった五時間しか日が当らない。僕は自分ひとりでこの村に日蔭の村という名をつけているんです。この名前には別の象徴的な意味もあるんです……」（「日蔭の村」）

奥多摩の白丸付近を流れる多摩川の渓流　(「日蔭の村」)

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

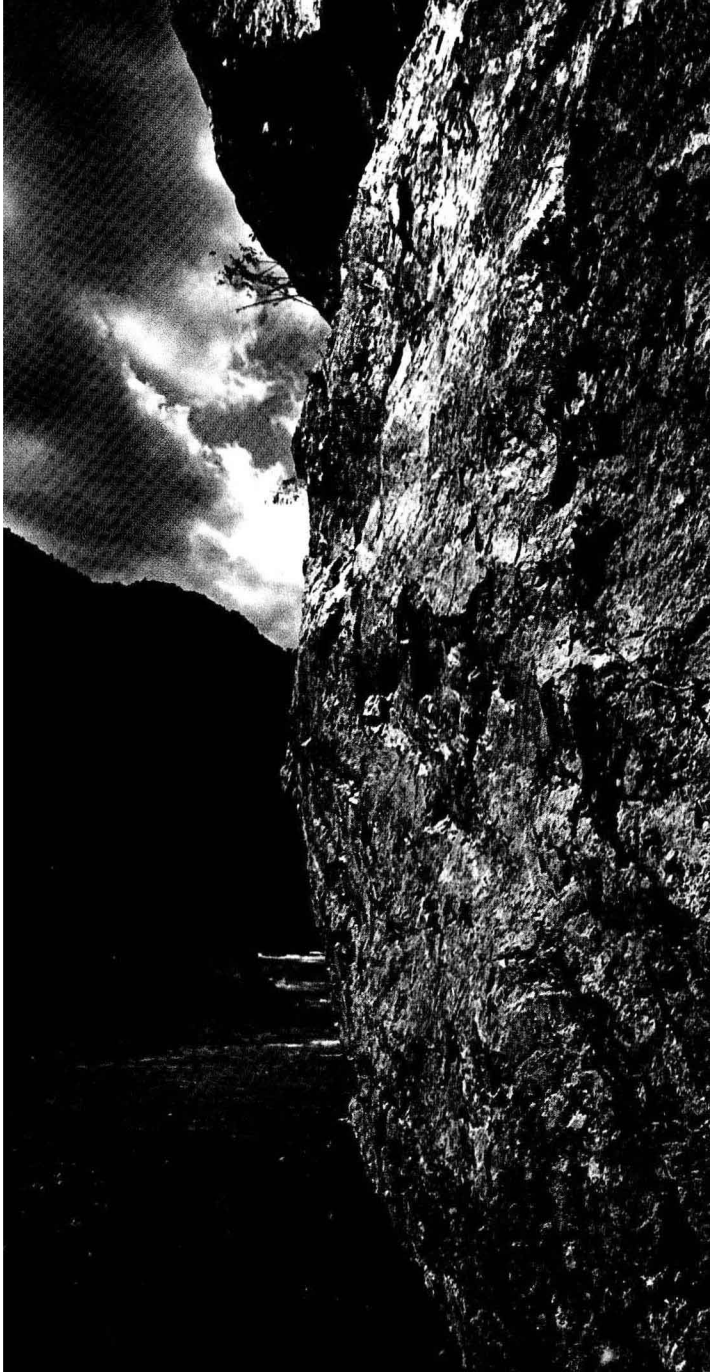
東京都下氷川付近

このあたりは……東京からたった二十里しか離れていないが文明社会からは隔絶した平和の里で、桃源郷というほどの恵まれたものは何一つないにしても、無事な物静かなひっそりとした部落部落の生活が親子何代となく続いたのである。（「日蔭の村」）



上　午後，はやくも影につつまれた白丸の民家
右　奥多摩湖の夕暮れ　　（「日蔭の村」）

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.c



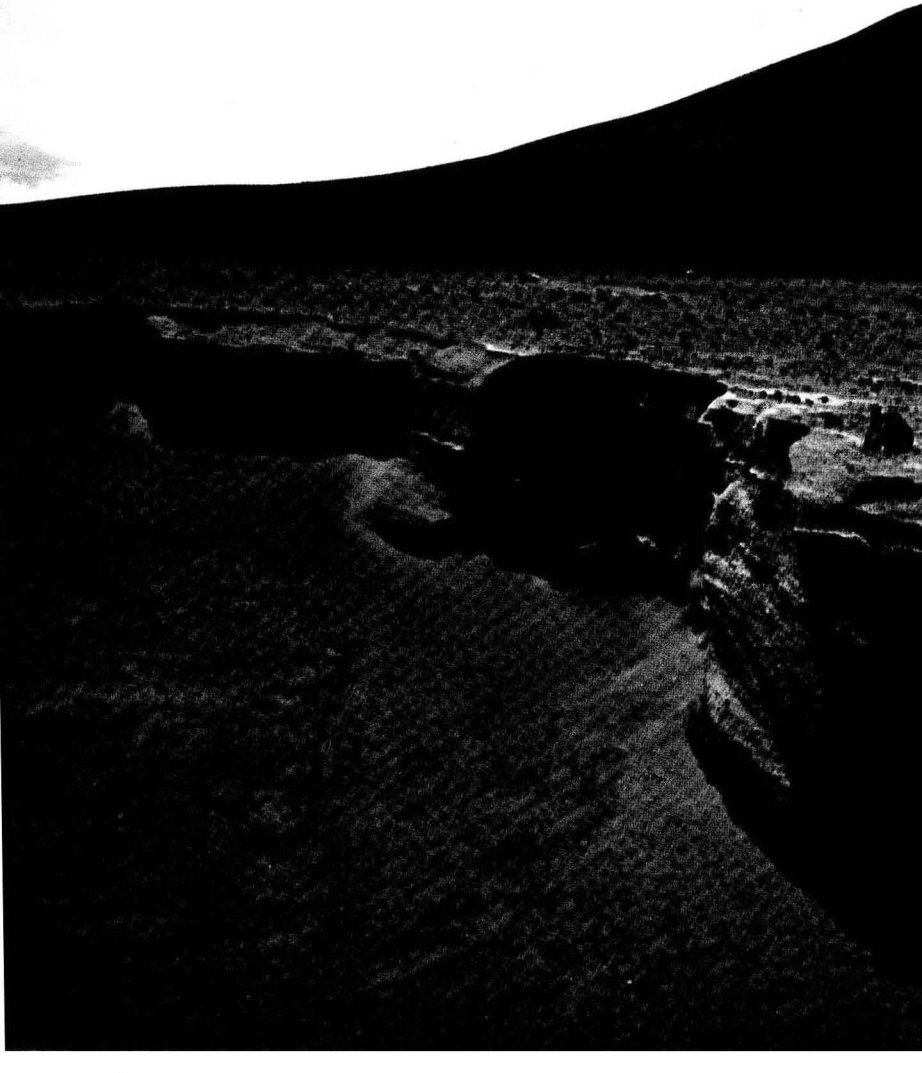
東京都下鳩ノ巣付近

右　百尺に近いその崖の下には青い淵が静かに泡を浮べて雲の影を映しているか、または湧きたつ早瀬が岸をかんで滔々と鳴りながら、深い山襞の底をめぐりめぐって真白い曲線を描いている。（「日蔭の村」）

左　風が強かったので船は元村を避けて岡田村の浜についた。（「智慧の青草」）

大島の岡田港

恭子はふと自分の身にせまり来る孤独を感じた。（「智慧の青草」）



大島三原山の砂漠

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.c